

アンリツ、分散型遠方監視装置「ET3000 シリーズ」、国土交通省 東京国道事務所に導入

— 監視システムの分散化により、災害・障害時の監視継続性とコスト削減を両立 —



アンリツ株式会社（社長：濱田 宏一）は、国土交通省東京国道事務所様において、CCTV および屋外用無線 LAN 設備向けの簡易型発動発電機の監視を目的とした「分散型遠方監視装置（ET3000 シリーズ）」を導入したことをお知らせいたします。

本導入により、従来の一極集中型監視システムから分散型構成へと移行し、災害・障害時にける監視継続性の向上と、監視子局整備にかかるコストの大幅な削減を実現しました。

このたび、その導入の背景や効果をまとめた事例紹介リーフレットを公開しました。

*Closed Circuit Television（閉回路テレビ）の略で、特定の場所（建物内や施設内など）で、カメラで撮影した映像をモニターで監視するシステムのこと。

■ 導入の背景

東京国道事務所様では、既設監視サーバおよび OS の老朽化に伴う保守リスクや、障害発生時に全体監視が不能となる一極集中型システムの課題、さらに新設発電機の監視子局整備にかかる高コストが課題でした。

■ 導入のポイント

サーバレス構成による OS 依存からの脱却

汎用 PC の WEB アクセスにより、長期的な安定運用を実現。

分散構成による監視継続性の向上

障害発生時でも一部監視が継続可能。

リモート IO 装置による整備コストの削減

監視子局あたりの整備コストを約 50%削減。

簡易型発動発電機の大規模監視を低コストで実現

CCTV・屋外用無線 LAN 設備向けに対応。

■ NETIS 登録技術としての信頼性

本装置は、2023 年 10 月に国土交通省の新技術情報提供システム（NETIS）に登録されており、公共インフラ分野における新技術として高い評価を受け、公共インフラの DX 推進にも寄与しています。

- ・ NETIS 登録番号：KT-230135-A
- ・ 技術名称：広域分散型設備監視制御システム

■ 今後の展望

アンリツは、分散型遠方監視装置のさらなる普及を通じて、公共インフラの安全性・信頼性向上に貢献してまいります。

■ 製品情報

分散型遠方監視装置「ET3000 シリーズ」は、広域に点在する設備を効率的に遠隔監視・制御するためのソリューションです。専用監視サーバを必要とせず、汎用 PC を活用することで、システムの簡素化とコスト削減を実現。省スペースでの設置が可能で、地方公共団体の非常用発電設備、受配電設備、河川ゲート設備などでの多数の導入実績があります。

アンリツ環境計測カンパニーは、これまで培った情報通信や環境計測の技術と知見を活かし、お客様やパートナーの皆様との協力を深めることで、先進的で信頼性の高いソリューションを提供し、社会課題の解決や持続可能な産業と社会の実現に貢献してまいります。



[ホワイトペーパーに関するお問い合わせ先]

アンリツ株式会社
環境計測カンパニー
営業本部
TEL：046-296-6523
E-mail：an-post@zz.anritsu.co.jp

[報道関係のお問い合わせ先]

アンリツ株式会社
コーポレートブランディング部
TEL：046-296-6671
E-mail：PR@anritsu.com